



# 飼料増産

# ホットニュース

第 53 号 2009. 6. 15

発行者 全国飼料増産行動会議事務局  
事務局 (社)日本草地畜産種子協会  
〒104-0031 東京都中央区京橋 1-19-8  
大野ビル  
TEL 03-3562-7032 FAX 03-3562-1651  
<http://souchi.lin.go.jp/>

## コントラクター

### 集約的な飼料用とうもろこし生産への取り組みへ ～東伯コントラクター組合～

鳥取県中部総合事務所農林局東伯農業改良普及所 森本一隆

#### 1 コントラクター設立の経緯

鳥取県中部地域には、飼料用とうもろこし生産を目的としたコントラクターが3組織あります。その中で最も新しく設立されたのが東伯コントラクター組合です。

琴浦町東伯地域は、酪農家戸数や頭数が鳥取県内の約1/5を占める酪農が盛んな地域です。その中の10戸の酪農家が、自給飼料の生産・確保による酪農経営の安定と効率的作業による集約的な飼料用とうもろこしの生産を目的として、平成19年度にコントラクター組合を立ち上げました。いわゆる粗飼料生産組合の発展形としてのコントラクター組織と言えるでしょう。先に設立された2組織が、自走式コーンハーベスターによる収穫のみを受託するものであったのに対し、東伯コントラクター組合は、耕起、播種、除草剤散布～収穫と、飼料用とうもろこしの栽培に関する全ての作業を受託する組織として設立されました。

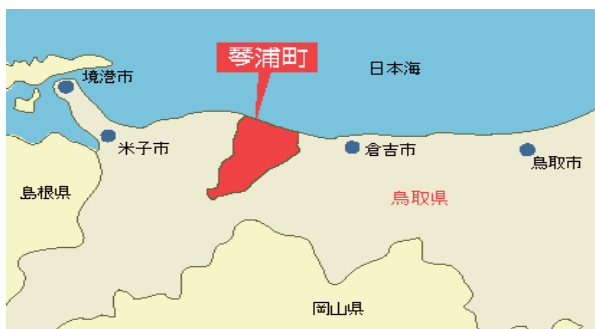
#### 2 取り組みの内容

東伯コントラクター組合の母体となったのは、地域の酪農家の共同TMRセンターの川東飼料組合です。東伯コントラクター組合は、平成19年7月に設立され、初年度は導入する自走式コーンハーベスターの機種を選定、その他の機械装備の検討、受託料金体系、法人化の可否等について、関係者と組合員が十分な検討を行い、平成20年度から100ha以上の作業受託を目指しました。(ちなみに、平成19年度の川東飼料組合としての共同作業による飼料用とうもろこしの収穫面積は約70haでした。)



自走式ハーベスターによる収穫風景

#### 鳥取県東伯郡琴浦町位置図



東伯コントラクター組合の機械は組合員から借り上げる形で賄われました。ただし、飼料用とうもろこし栽培の効率的作業に欠かせない不耕起播種機と

#### コンテンツ:

- 集約的な飼料用とうもろこしの生産・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 頁
- えん麦「たちあかね」を利用した粗飼料の増産・・・・・・・・・・・・ 3 頁
- 事務局より・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 頁

自走式コーンハーベスターは、コントラクター組合が独自に装備しました。4条の不耕起播種機は自己資金で、6条の自走式コーンハーベスターは強い農業づくり交付金を利用し装備しました。



新たに装備された4条の不耕起播種機



共同バンカーサイロへのサイレージ調製

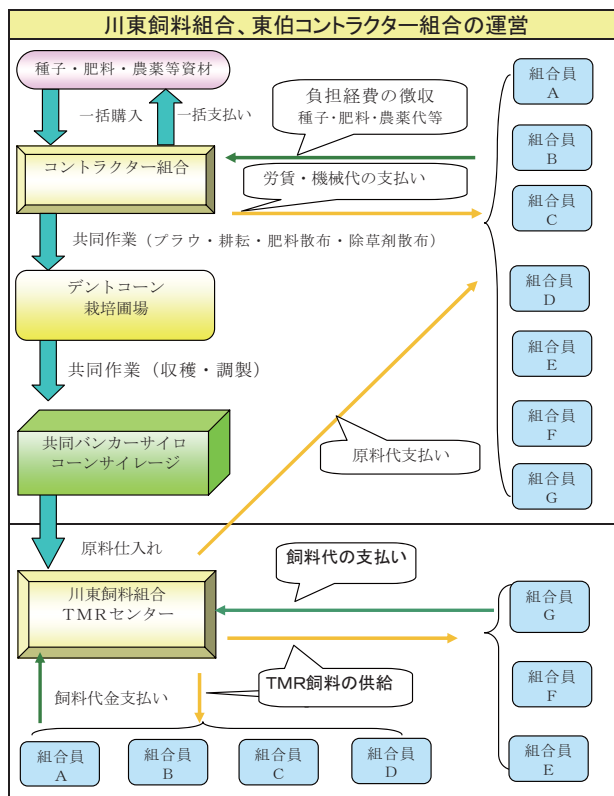


共同バンカーサイロ

### 3 TMRセンターとの連携

共同TMRセンターである川東飼料組合は、東伯コントラクター組合が生産したコーンサイレージを利用して、濃厚飼料やビール粕、購入乾草等と混合

し酪農用TMRを製造し地域の酪農家へ供給しています。この二つの組合の関係を整理したのが下の図です。やや複雑な図になっておりますが、一旦コーンサイレージを購入し、TMRの利用量に従って代金を精算する形で運営されております。



### 東伯コントラクター組合料金体系（単位：円）

作業名	組合員	組合員外
プラウ作業	3,800	8,000
は種作業	5,000	6,000
収穫作業	11,000	12,000

\*は種・収穫作業/10a、プラウ作業/1hあたり

### 4 今後の展開

平成20年度の事業計画では100haの作業受託予定でしたが、輸入飼料価格高騰の中、組合員のとうもろこし栽培の意欲は強く最終的には約120haの作業受託面積となりました。本年度は、さらに受託面積が拡大し、125ha程度になると予想されます。

また、平成20年度は、飼料用とうもろこしの2期作にも3haで試験的に取り組みましたが、登熟が不十分であり、乾物及び粗脂肪割合が低い結果でした。

そのため、本年度は品種の組み合わせを見直し、1作目の収穫を早め、2作目を8月初めに播種し、十分な登熟によるより栄養収量の高い2期作を目指しております。既に、本年は1作目の播種を4月13日に実施しましたので、今後の成果に期待しているところです。

# えん麦の 作付け

## えん麦「たちあかね」を利用した粗飼料の増産 ～栽培試験に取り組む「めんこ8起会」～

宮崎県西諸県農林振興局 小畑 寿

### 1 はじめに

宮崎県の飼料作物栽培面積は昭和60年をピークに、その後は減少しています。しかし、飼料用イネとえん麦については近年増加傾向にあります(図1)。

麦類が増加している理由は、牧草と混播して水分調製作物として利用する作型が増加していることや、9月は種のイタリアンライグラスに激発型イモチ病が多発するようになったことから、えん麦へ切り替えて栽培する農家が増えているためです。

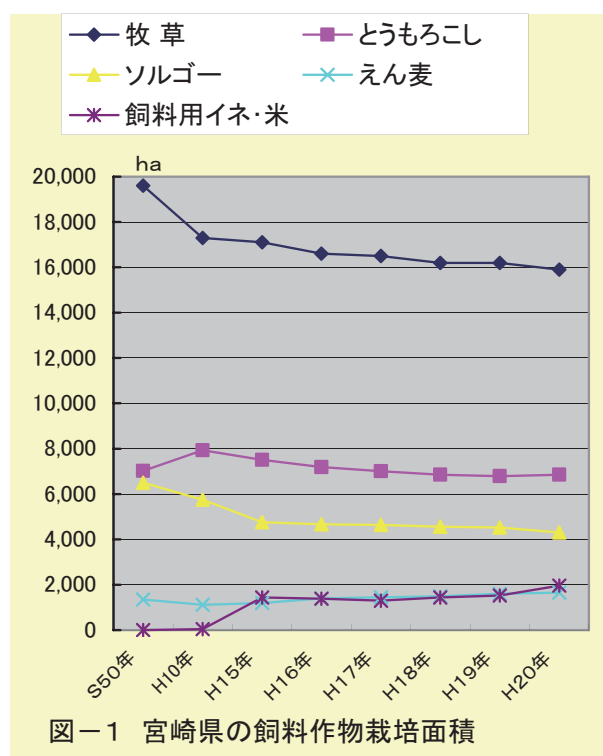


図-1 宮崎県の飼料作物栽培面積

### 2 えん麦栽培の取り組み

西諸県地域は宮崎県南西部に位置し北は九州山脈を以て熊本県と西は霧島連峰を以て鹿児島県と隣接しています。気候は、年平均気温が15.5℃で、夏は暑く、冬は冷え込み、昼夜の温度格差の大きい内陸型気候です。年間降水量は2,500mmに達します。

当地域の畜産は「西諸県牛」や「宮崎牛」のブランドで知られる肉用牛の生産が盛んに行われています。

近年、当地域の粗飼料増産の取り組みとして、えん麦の作付けが増加しております。なかでも極早生えん麦は年間2回の栽培が可能です。一般的な作型は、とうもろこし収穫後の8月下旬から9月上旬に

播種して11月から12月に収穫し、ラップサイレージや青刈り給与に利用されます。また、11月下旬から12月上旬に播種し、4月から5月に乾草やラップサイレージとして収穫・調製する方法です。近年では輸入オーツヘイの代替として、えん麦の乾草調製に取り組む農家や、同一圃場に9月と12月にえん麦を2回播種する農家も現れています(写真1)。



(写真1) えん麦の乾草調製作業風景

### 3 高原町「めんこ8起会」の取り組み

今回紹介する「めんこ8起会」(めんこ:雌牛の子、8起会:7転8起の意味)は、宮崎県西諸県郡高原町内で畜産後継者のパートナーになった27名の若い奥さん達の集団で、平成19年3月に結成されました。主な活動は、肉用繁殖牛や酪農の飼養管理に関する基礎的技術等の習得で、定期的に繁殖の基礎や種雄牛の系統、交配等について学んでいます。なかでも、えん麦栽培については飼料自給率向上のため結成当初から意欲的に取り組んでいます。(写真2)



(写真2) めんこ8起会研修風景(生育確認)

宮崎県西諸県農林振興局（旧西諸県農業改良普及センター）は平成18年に九州沖縄農業研究センター牧草育種研究室（以下「牧草育種研究室」という。）の依頼を受け、「たちあかね」の地域適応性確認展示圃を設置しました。この時、めんこ8起会の会員が草丈1.6mに育った「たちあかね」に驚いて翌年から栽培試験に取り組み始めました。栽培試験に用いた「九州14号」「九州16号」は牧草育種研究室で作られた品種で、栽培適応性試験として展示しました。そこでも「たちあかね」については特に評価が高く、平成20年には（独）家畜改良センター熊本牧場から調査・展示用種子として払い下げを受けて独自に追加試験栽培を行っています。そのため、西諸県地域での「たちあかね」の栽培面積は僅かではありますが増加しました。

「たちあかね」は、耐倒伏性が強く機械での収穫作業に適しています。また、春に多発する冠さび病に抵抗性を持つため被害が少なく、更に、耐寒性は市販品種より強く、冬期の葉枯れも少ないという特徴があります。この特徴は、秋に播種して春に収穫する栽培に大変有利です。

収量はこの地域で最も流通量の多い品種「A」と同じ程度か又は少ないですが、品種「A」は耐倒伏性がやや劣るため、倒伏に強い「たちあかね」が特に大規模の生産者に好評です。

めんこ8起会などの栽培試験結果を図3-1と図3-2にまとめました。図3-1は平成19年秋に播種して20年春に収穫した9カ所での栽培結果で、図3-2は20年夏に播種して冬に収穫した6カ所での栽培結果です。20年秋は日照不足などがあり平年よりやや減収していることが推測されますが、秋播種栽培は夏播種栽培より収穫量が多いことが示されました。また、平成20年・21年の春には目標どおり乾草で収納することもできました。

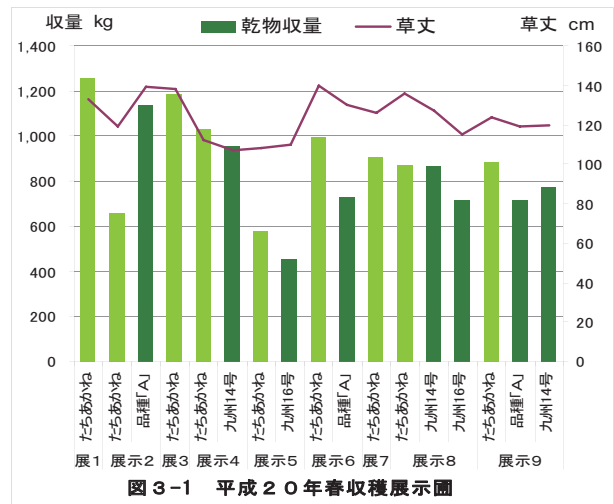


図3-1 平成20年春収穫展示圃

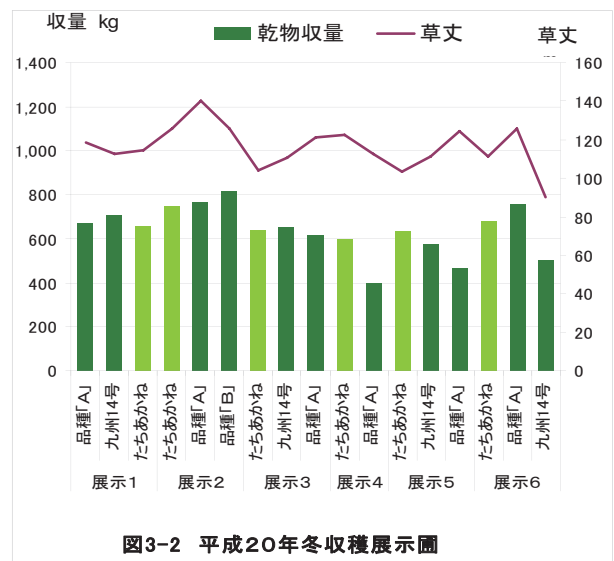


図3-2 平成20年冬収穫展示圃

#### 4 今後の取組み

平成21年には「たちあかね」種子約3トンの市販が開始される予定ですので、約50ヘクタールの栽培が期待できます。めんこ8起会も種子を購入して更に栽培面積を拡大して自給率向上を目指す計画です。

#### 事務局より

##### 《飼料増産重点地区への登録のお手伝いをします。》

□「飼料増産重点地区への登録のため、当協会では飼料増産に関する研修会、現地指導等について講師を派遣しています。詳細については、当協会ホームページをご覧ください。

##### 《第13回全国草地畜産コンクール表彰式について》

□「第13回全国草地畜産コンクール表彰式」を6月29日（月）午後1時から発明会館ホール（東京都港区虎ノ門）において開催します。多数の皆様のご参加をお待ちしています。詳細については、当協会ホームページをご覧ください。

##### 《放牧アドバイザーによる放牧の現地指導について》

□放牧アドバイザーによる放牧の現地指導、放牧に関する講演の講師を派遣しています。詳細については、当協会のホームページをご覧ください。

**放牧アドバイザーの旅費、教材費等は当協会が負担します。**